

学報



島根県立大学

第24号

あらためて「高等教育とはなにか」を問い直す

—「中教審答申」と本学の位置づけ—

学長 宇野 重昭

本年1月に採択され文部科学省の政策決定に大きな影響力をもつ中央教育審議会の「我が国の高等教育の将来像」（以下「将来像」と略称）は、高等教育に関する格調の高い理念・理想の体系を示しつつ、それなりに詳細な現状分析の上に立ち、日本の国公立大学にたいし現実的な政策提言をおこなっている。とくにこれからの大学が「緩やかに機能別に分化していくものと考えられる」という現実を背景に七つのパターン（あるいはモデルらしきもの）を提示した事は、周知の通りである。

島根県立大学もまたこの“パターン”提示を参考にして、「幅広い職業人養成」と「総合的教養教育」を基礎に、これに社会貢献機能（地域貢献、産官学連携、国際交流等）と国際的知の拠点構築を加味して、新しい大学の目標を設置した。

このパターンの提示は間違っていないと考える。それは島根県立大学の個性を生かす指針としても現実的である。しかし「将来像」

の構成にはどうも釈然としないものが残る。なぜであろうか。

この「将来像」は、「各大学は自らの選択に基づき」選択するというように各大学の自主性と柔軟な対応を前提としながら、なお後半のある部分では突然に国立・公立・私立の活動領域の相違を浮き彫りにし、「例えば、世界最高水準の研究・教育の実施、計画的な人材養成等への対応」などは国立大学固有の使命のように示唆し、これを公立大学の役割のなかには言及していない。たしかに国立大学は公立大学に比べて研究の水準も一般に高いし、人材も豊富である。しかし、だからといって、公立大学をいちがいに「世界最高水準の研究・教育」の担当の可能性から排除する必要もないと考えられる。この点は「将来像」の説明会ごとに提起された疑義である。そこにはどうしても国立・公立・私立の格差の潜在意識がつきまとっていると考えられるからである。

(次頁へつづく)

目次

あらためて「高等教育とはなにか」を問い直す 学長 宇野 重昭 …… 1	規則に関する事項 …… 10
「地域振興に関わる提言を 含む卒業研究・論文発表会」の開催 … 3	会議の開催状況 …… 10
平成16年度優秀卒業研究発表会を開催 … 4	人事に関する事項 …… 12
第2回卒業証書授与式 …… 5	主な学内行事 …… 12
第1回大学院学位記授与式 …… 8	主な来学者 …… 14
	お知らせ …… 14

そのような格差の印象を与える根本原因として、この「将来像」の理想主義と現実主義との結びつけかたに問題があるように思われる。つまり、極めて格調の高い、バランスのとれた理想主義が掲げられながら、これが現実的な現状分析、政策論と必ずしも有機的に結びついていない。換言すれば広い意味における合理的戦略・方策が系統化されていない。その結果、たとえば先に引用した“七つのパターン”らしきものも、現実のある公約数と無造作に結びつけられ、七つ特別の理由もなく、併記されているように思われる。いま大切なことは、このおのおののパターンと高等教育の「高等」との関係が説明されるべきなのに、それはほぼ完全に“省略”されている。したがってこの「将来像」のはじめの部分に展開されている見事な理念論が結果的に浮き上がってしまっているようにみえる。これでは「知識基盤社会」の時代とか、「精神的文化的側面と物質的経済的側面のバランス」といっても、それは抽象的で空しく見える。

いま問われるべきことは、そもそも「高等教育とは何か」ということを具体的に明らかにすることである。

それは制度論に最終的には直結するものとはいえないかもしれないが、おおまかには中等教育、大学教育、大学院教育と関係している。つまり、(1) 正確な知識の体系的伝達、(2) 知識の構造的組み立て、(3) 独創的・創造的学術の展開である。高等教育とは、この第二の段階に相当する大学教育をも中心として、大学院教育を視野に入れたものといえよう。そして第二の段階の場合には、当然のこととして、“理論的枠組み”と“仮説の提起、分析、論証”が不可欠となる。またそのために国際的レベルに達する理論の比較・考証が重要な役割を演じる。

そして現代の大きな特徴は、その知の体系が急速に変化するとともに、複雑化しているところにある。このため、教養にせよ、専門にせよ、高度の専門にせよ、その内容は年々変化し、複合化しつつある。そして一見反復にも似た教育が求めら

れることもしばしばある。こうなるといわゆる制度は相対的に意味を後退させる。教養と専門との相違も希薄化するようにみえる。ただし、知識の体系的伝達・構造的組み立て・創造的展開の系列は繰り返し現れる。この流れを無視しては高等教育は成り立たない。

これからは、高等学校における高等教育の開始、大学教育における反復と積み上げの確認、大学院教育における創造的学術能力の錬磨は、重要な意味をもつことになるであろう。そこには国立・公立・私立の区別はない。またこれとの関連を抜きにしては、「将来像」の七つのパターンも説得力をもたない。

島根県立大学としては、このような考えを背景にして、「将来像」の七つのパターンは充分参照しながらも、あえてその枠組みを超えて柔軟に適應することとした。そして具体的には、高等学校教育との実質的組み合わせと内容的積み上げ、大学教育における専門性を組み込んだ教養と社会における実践的能力との連携・体系化・高度の思考能力における創造力の向上の可能性を尊重することとした。高・大連携の努力も、カリキュラムの洗い直しの開始も、そのためである。こうしてはじめて高等教育の意義は実感できる。そして同時に現実的なものとなる。よくいわれる現実主義的理想主義と理想主義的現実主義は、ともに必要であろう。しかし現在の教育の現場にあっては、まずなにより現実主義的理想主義から出発したい。

**「地域振興に関わる提言を含む
卒業研究・論文発表会」の開催**

本学では総合政策学部の卒業年次の4年生に原則として「卒業研究」が課されている。標準2万字相当の卒業論文を課すというのは、学生ひとりひとり個性を生かした丁寧な指導を必要とするために、社会科学系・大規模大学では全国的にはあまり実施されていないのが実情である。本学では、小規模な大学であることと、地域社会と密接な関係をもつ「地域に生きる大学」という方針のもとに運営されていることから、学生は学生仲間の交流だけでなく、浜田を中心とした地域の人々と地域活動、NPO活動を通じて日常的に接するものも多い。また、研究テーマの選択については本人の関心を尊重して自由な選択を容認している教員・ゼミも多数あることもあって、結果的に卒業研究のテーマに地域問題をとりあげる学生が多くいる。殊に島根地域にかかわっていえば、郷土島根の今後のあり方、行く末を考え「地域の活性化」を主題とするものがしばしば取り上げられている。その中には、地域のあり方・政策のあり方についてのヒント・提言として注目するに値する研究もかなり含まれている。

そこで昨年3月に試みとして地域振興に関わる提言を含む卒業研究・論文の発表会を開催したところ、多くの市民、行政関係者、企業経営者などの参加をいただき、好評であった。そこで今年も卒業式の前日、この3月17日に第2回の「発表会」が地域連携委員会の主催で開催された。島根県立大学では、教職員・学生と地域社会との連携を進めるために、去年の四月に新たに「地域連携推進委員会」が交流センターに置かれることとなり、相談「窓口」の設置や専門家としての教員を産工学連携、市民活動、NPO、ボランティア、文化・景観、映像文化の各分野のコーディネーターに配置するなど、具体策が進められてきたところである。

今年度の学部の卒業研究、初の大学院修士課程修士論文にも地域活性化と地域問題をとりあげたものが多く、そのなかから、学部卒業生4名、大学院修了生2名の報告がとりあげられた。まず田

中温子さん(学部卒業生)は「地域の自立に向けて一斐川町を事例として」と題して内発的産業形成と地域産業政策の展開、NPO法人の事業支援、高齢社会という弱みとみえるような地域の特質をとらえ、それを「強み」に置き換えた製品の開発がなされた、などについて報告した。河人正樹君は「保健・医療・福祉の連携と統合」というテーマで、人々の福祉ニーズアセスメントへの参加・コミュニティ形成が重要となると指摘した。安倍智子さんは「商店街の活性化について一松江市にみる活性化の問題」というテーマで、松江市天神町のまちづくりの挑戦を、東京の巣鴨地蔵通り商店街の試みを参照しながら報告した。吉田友香さんは「持続可能な社会へ向けての環境教育—教育における具体的な実践と展望」というテーマで、自分の学生時代のまちでの実践経験をふまえ、環境教育の実践のうえで「ネイチャー・ゲーム」や多くの人々が参加した「キャンドルナイト」のような具体的行動の組織化がいかに大切かを示した。

初めての大学院修了生の報告では、まず山本圭氏(島根県派遣)が、「デジタル・デバイドの社会構造」と題し、知識・情報化社会においてITという新技術が人間の力の拡張をもたらす反面、世界と地域のなかに同時に大きな社会的格差をもたらす危険性があり、それをいかに認識して政策的に対応すべきか、を考えた報告を行った。草刈健司氏(浜田市派遣)は「地方分権時代に求められる新しい地方自治体の姿と行政システム」というテーマ、具体的に足下で進行している浜田・那賀地区市町村合併協議の進展をふまえて分析・検討した。自治区方式をとった今回のケースについて、これがめざされる基礎自治体の分権ということを経験した自治体住民自治の自己決定権の拡充という本来の目的を生かしてゆく手段として位置づける視点から、よりよきあり方をさぐり続ける必要があることが強調された。また、これらの報告について行政現場・政策現場の第一線にある立場から、浜田市助役の坂平弘昭氏、島根県浜田総務事務所長の田村正見氏から、それぞれに丁寧なコメントと助言をいただくことができた。大学と地域の協力関係をいっそう深めることとなった有意義な発表会となった。

(地域連携推進委員長 井上定彦)

平成16年度優秀卒業研究発表会を開催

3月17日(木)午後2時から4時にかけて中講義室5で優秀卒業研究発表会が行われた。この目的は、本学で実質的に必修化されている卒業研究について優秀作を顕彰し学内外に公表することである。こうした発表会は日頃から真摯に研鑽を重ねている在学生にとっても励みになると期待される。

当日は冒頭、宇野重昭学長から優秀作への表彰が行われた。今年度受理された卒業研究は208点であり、優秀作の選考過程では、(1)成績優秀者(上位10名)の卒業研究10点と(2)総合化演習ゼミ担当教員が推薦した卒業研究18点(9つのゼミ)、合計28点が選考対象となった。選考基準は、研究課題の設定・着眼点、全体の構成、論考・結論の適切さ、表現力、註の適切さ、引用文献リスト、独創性である。特別実行委員会では本学教員6名による厳密な査読作業を経て次のような選考結果に至った。

*特別優秀賞(学籍番号順)

- 綾香 恭久 「『金丸訪朝』に至る政策過程」
 河人 正樹 「保健・医療・福祉の連携と統合」
 川本 未来 「人間の安全保障における健康開発の意義：ジェンダー・エンパワメントによるリプロダクティブ・ヘルスの実現可能生と課題」
 寺脇 史人 「ポーランドの戦後再建をめぐる一考察：ワルシャワ歴史地区の再建と景観が持つ政治的価値に注目して」
 平田 貴則 「21世紀における企業経営：日産の経営再生から考える」
 渡辺真由佳 「裁判による共有物分割の方法：全面的価格賠償の方法による共有物分割について」

*優秀賞(学籍番号順)

- 今谷真理子 「アジアの英語：Singlishの研究」
 景山あずさ 「日本の生涯学習の展開と特徴：比較社会論の視点を踏まえて」
 本藤 憲一 「90年代後半以降のわが国の金融政策について」
 松原千夏子 「過疎・高齢化地域の公共交通問題」

三谷 円佳 「人格・思想形成を目的とした教育の日中比較」

箕浦 幸子 「秩序と教育：戦後日本における既存教育の闊歩と再生の肖像」

三輪 香織 「日本型雇用システムの課題とその将来像」

選考後、入選者に発表会への出欠を確認し、発表者リスト(賞の区別なく学籍番号順のリスト)が作成された。発表会では11名がそれぞれ8分間のスピーチを行い自らの卒業研究のエッセンスを聴衆(学生、教職員、地元市民の方々計約70名)に披露した。

卒業研究のテーマは、地域社会、経営、経済・金融、法律、教育・社会、国際政治、国際社会開発など多岐にわたっている。今回の発表会は総合政策学部の複合的なプロフィールを端的に表していた。最後に今岡日出紀学部長からの閉会の言葉として、発表者の堂々としたスピーチへの賛辞が寄せられた。卒業研究への情熱を臆することなく自分の言葉で表現した発表者たち一人ひとりに感謝したい。(優秀卒業研究発表会実施特別委員会代表・教務委員長 高橋睦子)



第2回 卒業証書授与式

平成17年3月18日

学長式辞

ただ今、卒業証書を授与された198名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、平成13年4月にこの島根県立大学に入学し、若き日の研鑽を経て、本日栄えある卒業の日を迎えられました。転入学の諸君も加えて、この大学時代、勉学に、そしてクラブ活動に、また社会貢献・社会研究に、それぞれ人生の充実した日々を過ごし、今日を迎えられたことと存じます。これまで皆さんと労苦を共にしてこられたご父母、ご家族の皆様も、さぞ皆さんの社会への本格的な参画の日を待望してこられたことと存じます。私共教職員一同、心からお慶び申し上げます。

また、私たちとしましては、大学を建設する最初の計画から本日まで、喜びを共にしてこられた島根県の皆様の温かい励ましを忘れることはできません。本日は、当初から島根県立大学の設立を推進されました島根県を代表される副知事の松尾秀孝様、県民を代表される県議会議長代理の田原正居様、熱烈に大学を誘致された地元浜田市を代表される市長の宇津徹男様、そして大学を支援してくださっている後援会、支える会をはじめ、島根県、浜田市の教育界、政界、産業界などから多くの来賓の方々が出席してくださっております。3月というご多忙の中に、本日、本学の第二期生の卒業式にご臨席賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

今年は引き続き日本経済の厳しい年であったにもかかわらず、卒業生の就職は昨年以上に順調に進みました。大学院への進学者も予想以上でした。そのほか、外国に留学する人、各種の専門学校で学ぶ人、それぞれに新しい人生の道を踏み出していこうとしておられます。私たちは、その一人一人の夢と希望が実現されることを祈っております。

ただ申し上げるまでもなく皆さんの前途には未知の世界が広がっています。とくに現代科学の発達、情報技術の発達は、とどまるところを知らず、一方において人々の知識の世界は無限に開くとともに、他方において人間関係を予想外に輻湊させ

ております。本学は、そのような世界にあって、知的体力を養い、複雑な社会に貢献し、自主・自治の精神を養うことを目標に掲げてまいりました。皆さんは、この精神を身につけられて社会に出ていかれます。

ただ自治ということは必ずしも容易な道ではありません。かつてのギリシャのポリスの時代には、自治は、特定の限られた地域に根をおろし、限られたアイデンティティ・ロイヤリティをもって生きれば評価されました。しかし今では、隣人から地域へ、そして地域から世界へと全体を包括する複合したロイヤリティをもって自治と民主の精神を養わなければなりません。新しい時代のコミュニティに生きることを説いたM. J. サンドルは、『あくなく求める民主主義』（1998年）という本のなかで、次のように言っています。

いま複合した自治と民主の社会を前提に生きようとするとき、われわれ市民は、複数の忠誠心（ロイヤリティ）を持たなければならない。そのロイヤリティは時には対立し、時には矛盾し、時には人それぞれのなかに複数の価値意識を共存させるよう求める。それは容易なことではない。なぜならわれわれは人間の間における複数の価値のなかに生きることにはなれているが、自分自身のなかに複合した自己を保持することはかならずしも容易なことではないからである。

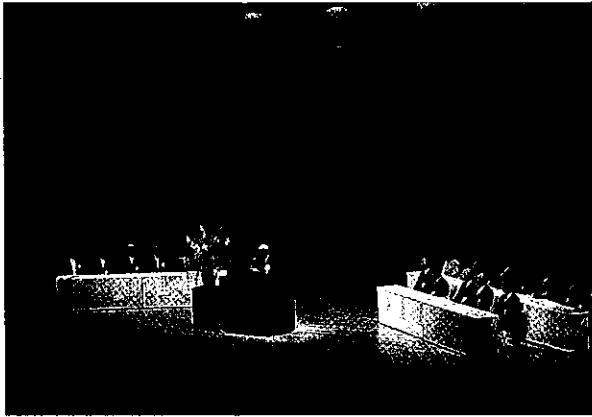
たしかに自己のなかに複合したアイデンティティを持つということはむづかしい問題です。しかし今の時代には、それが民主の精神の源泉として求められています。ただ今の世界では、その複合性の原理による民主と自治を否定して、一面的な価値意識を固守し、それを他者に押し付けようとしている国もないわけではありません。しかしわれわれはあくまで多元性・多様性を理解しあう民主・自治の精神に生きたいと思えます。それが近現代の歴史において多くの人々が積み上げてきた精神的資産です。

皆さんは、卒業に当たって、どうか大学で学んだことを思い起こし、未来との関連で過去の学習を生かしてください。そして、絶えず、自信を新たにしてください。

皆さんが、新しい時代に生きる社会人として、新たな自覚をもってスタートし、人々から敬愛さ

れる人となり、それぞれに自己の可能性を再発見していかれることを祈り、学長式辞とします。

島根県立大学長 宇野 重昭



在校生送辞

優しい春の息吹に誘われて、草木までもが心軽やかになる希望に満ちた季節となりました。今日のよき日に旅立つ、第二期卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

これから皆さんは、住みなれた世界に別れを告げ、夢と希望に満ちた新しい世界へ旅立っていかれます。

先輩方が羽ばたいていかれる世界には、解決すべき多くの課題が山積しています。地球規模での環境問題、国内においては、少子高齢化、長引く不況、凶悪犯罪の多発など、夢を持ちにくい世の中です。そうした社会に出て行く先輩方は、大変な時期に卒業されることになります。しかし、新たな可能性は、危機に直面したときに生まれ、そこからそれを解決しようというより強い意志も芽生えて来ると思います。

また、私達は、先輩方からたくさんのことを教わりました。厳しい現実にも直視しつつも全力で取り組まれた就職活動、学問を究めようと大学院進学を決意された熱意、様々な面に置いて、前向きに考え、自分の目標に全力で取り組まれた姿勢にどんなに励まされたことかわかりません。

先輩方と、一つの目標に向かって一緒に力を合わせて乗り越えてきたこと、ともに泣き、笑い、怒り、励ましあいながらここまで私たちを導いていただいたこと。その一つ一つが、どれも一生忘

れることの出来ない、大切な思い出です。

私達は、先輩方が自らの行動をもって示して下さったことを誇りとし、築かれた伝統を引き継ぎ、伝統を絶やすことのないよう精進して行きたいと、決意を新たにしております。

先輩たちから頂いたものは、全て大切な宝物です。先輩たちの歩んだ道は、いつでも私たちの道しるべです。みなさんの後輩になれて良かった、と、心から思います。遠く離れてもこれからもみなさんの後輩で居させてください。この四年間で出会ったきた人たちを生涯の宝として、終わりのない青春がいつまでも続くよう、自分の信じる道を進んでいってください。

最後になりますが、島根県立大学で学ばれた先輩の、ひとりひとりが自分の誇れるべきものをもって世界に羽ばたかかれていかれることを祈念いたしまして、送辞とさせていただきます。本日は本当におめでとうございます。

在校生代表 島根県立大学総合政策学部
総合政策学科2年 松前 早紀

卒業生答辞

春の香りが校庭にみなぎり、桜のつぼみも膨らみ始めました。本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。私たちは今日、さまざまな想いを胸に、島根県立大学を卒業します。

期待と不安を胸に抱えた入学式から、今日までの道程を思うと、さまざまな記憶が蘇ってきます。学生寮での友人との出会い、大学での初めての講義、サークル活動に打ち込んだ日々、地域でのボランティア活動、準備に明け暮れた海遊祭、一生懸命に取り組んだ授業の課題、中国での異文化理解研修。そして、四年間の集大成である卒業論文の作成。

自分一人の力では決して成し遂げられなかったことが、この四年間に何度達成できたかわかりません。苦しい時もありましたが、過ぎ去った今となっては、すべてが、かけがえのない宝物です。

私達が何のために、どうしてこの場所で出会ったのか、その理由は私にはわかりません。ただわかることは、島根県立大学に入学したからこそ、

私達は出会うことができたのです。そして、ここでしか学べないことや、感じられないことに出会えたのです。

親元を離れ、新しい土地で生活することへの不安を乗り越えられたのは、ここで出会った友人達のおかげです。大学での専門的な研究に打ち込むことが出来たのは、熱心にご指導下さった先生方のおかげです。そして、この場所で生活し、勉学に励むことが出来たのは、今まで育ててくれた両親、家族のおかげです。

島根県立大学でさまざまな出会いを経験し、学ぶことができたからこそ、私はここまで成長できたのだと思います。辛い時に支えてくださった先生方や、共に学び、助け合った友人達、遠い故郷で温かく見守ってくれた家族には、感謝の言葉をいくつ並べても、感謝しきれません。本当に、ありがとうございました。

今日、私達卒業生は、この学び舎を旅立ち、この大学で出会った人たちと、別れなければなりません。就職や、進学で、別々の道へと歩みを進めるときが来たのです。しかし、それぞれが自分の運命を切り開き、未来へと一歩を踏み出すために、私たちは別れるのです。別れのあとには必ずや新しい出会いが待っています。その出会いは、私達をさらに成長させることでしょう。別れを大切に、出会いに希望を抱いて進んでいこうと思います。

旅立ちの先に、どれほどの困難が待ち受けているかは、わかりません。悔しさに打ちのめされる瞬間が、幾度となく、私達に訪れることでしょう。しかし、私達は、困難を乗り越える力と、自分を心から支えてくれる存在と、生きることへの情熱を、この学び舎で得ることが出来ました。

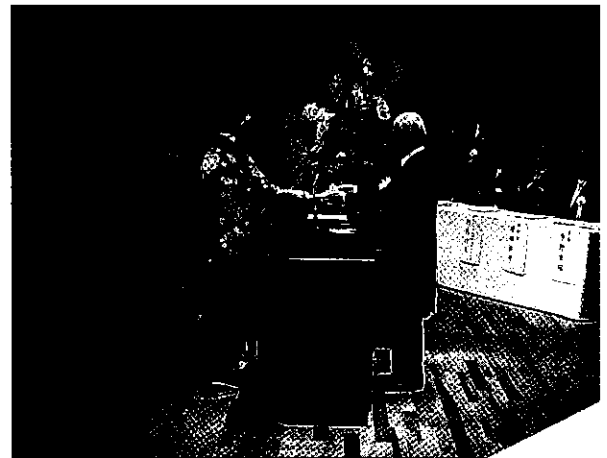
困難にぶつかった時でも、私たちは、決して一人ではありません。島根県立大学で出会い、同じ時間を過ごした友人達や、先生方、そして家族が、同じ空の下にいます。そのことを誇りに想い、これから先、困難に立ち向かって精一杯生きていこうと思います。

在学生のみなさん、この島根県立大学で精一杯、自分を磨いてください。島根県立大学の可能性は、無限大です。その可能性を活かすのは、自分自身です。自分を信じて、総合政策学という、幅広い

知識と、問題発見から多角的な分析、解決策を見出す力をできる限り吸収して行って下さい。

最後に、私たちがこの日を迎えることができたのは、今までに出会った皆様のおかげです。互いに助け合った友人たち、宇野学長をはじめ、ご指導して下さった諸先生方、様々な形で私達の学生生活を支えて下さったご来賓の方々、職員の方々、温かく見守って下さった地域の方々、いつも一番の理解者として励まし、支えてくれた両親に、私達が出会えた島根県立大学に、心より御礼申し上げます。そして、無限の可能性を秘めた島根県立大学の一層の発展を祈念して、答辞とさせていただきます。

卒業生代表 川本 未来



第1回 大学院学位記授与式

平成17年3月18日

学長式辞

ただ今、大学院修了証書を授与された13名の大学院修了の皆さん、おめでとうございます。大学院は「専攻分野に関する学術の理論及び応用」を身につけ、「その深奥を究めて学術文化の向上を図り、深い知性と豊かな感性を備え、自立して研究あるいは政策立案をすることのできる人物を育成する」ところと定められております。皆さんはそれぞれの可能性を評価され、本学大学院開発研究科の修士課程、あるいは、北東アジア研究科博士前期課程の修了を認められた有為の人材です。これから地域社会および国際社会の発展に寄与されることを期待しています。

今日、このよき時を迎えられますまでには、まず皆さん自身の努力があったと思います。またそれぞれの家庭の理解と援助があったことと拝察しております。さらに直接的には多くの教職員の懸命の努力があったことも記憶されていることでしょう。

それと同時に、この地域の大声援があったことも記憶しておいてください。皆さんは本学大学院の第1回の修了生です。本学の大学院設置の「たたき台」が作成されたのは本学発足以前の1999年(平成11年)のことでした。そして大学院設立の検討は、本学の発足と同時に開始され、その結果、2002年(平成14年)12月19日に文部科学省から設置認可がありました。それは地域の期待が現実化した日です。

本日はそのためにご努力いただいた島根県から松尾秀孝副知事様、島根県議会から議長代理の田原正居様、地元の浜田市助役の坂平弘昭様がお出席下さっています。後ほどそれぞれに祝辞を賜りますが、ご臨席を心から御礼申し上げます。また本学の参与をはじめ多くの方々が来賓として出席して下さっていますが、ご多用の中、第1回大学院修了生のためのご臨席をあつく御礼申し上げます。

申し上げるまでもなく本学の開発研究科と北東アジア研究科とは幅広い共通の基盤を持っており

ます。対象とする領域から言いましても、国際的視野からの領域、地域からの領域、政策情報からの領域と共通しています。また方法論から言いましても諸科学総合、地域研究、内発的発展論と相通じ合うものを持っています。とくに内発的発展論は、1970年代初頭、おりから国際的に展開された国連の「もう一つの発展」論と呼応して、日本で開発された独特の接近方法です。それは一面的な「近代化論」を批判して、学術と文化の相互触発を指向したところに大きな特徴がありました。本学大学院修了の皆さんも、それぞれにこの伝統の革新、アジアとヨーロッパの学問的対等関係、持続的発展の相互触発論などに触れられたことと思います。この伝統の革新は、過去に指向の重点を置くものではありません。本質的にこれは未来志向です。未来の進歩の構想があればこそ、過去が蘇るのです。

皆さんは、これから、それぞれの専門的な領域で、皆さんの可能性を展開されていくことでしょう。その時には、この島根県立大学における学問も蘇らせてください。大学院時代における学問は、皆さんにとっては、時には過去における進歩のための苦闘だったことでしょう。しかしそれはまた未来の進歩のための礎石です。自信を常に新たにしてください。大学院の課程を修了される皆さんに、東西にかかわらず有名なE.H.カーの次の言葉を贈りたいと思います。「未来に向かって進歩するという能力に自信を失った社会は、やがて、過去におけるみずからの進歩にも無関心になる。」

未来に向かって進歩する能力を確信して過去を蘇らせ、限りなく前進されることを祈り、学長式辞といたします。

島根県立大学長 宇野 重昭



修了生謝辞

春を思わせる暖かい日の翌日には冷たい雪が舞い散るといった例年のない寒暖の差の激しい日々が続きましたが、ようやく春本番の到来が感じられるようになりました。

本日は、多くの方々のご列席のもと、このように盛大な学位記授与式を挙げていただき、誠にありがとうございます。

本日、私たちは島根県立大学大学院北東アジア研究科博士課程前期及び開発研究科修士課程を修了いたします。今日の日を迎えるまでに、宇野学長を始め、諸先生方、事務局の皆様方に多くのご支援を賜りましたことを、修了生一同心より厚くお礼申し上げます。それと同時に、日頃お世話になった地元住民を始めとする多くの皆様、暖かく支えてくれた家族、友人にも感謝の意を表したいと思います。

思い起こせば、まだ名も知らない仲間に出会い、大きな期待とそれと同じくらい大きな不安を抱いていた入学から、またたく間に2年が過ぎました。しかしながら、この2年は、非常に充実した実りある何物にも代えがたい日々であったと感じております。なぜなら、私たち大学院生は、本学及び他大学からの進学者、留学生、社会人、公務員等、それまでの経歴も専門も年齢もさまざまな、多種多様な発想を持つ者の集まりであり、このような仲間たちと自然な形で切磋琢磨し、刺激しあえるというすばらしい環境のなか、有意義な時間をすごすことができたからです。時に、困難な壁に突き当たることもありましたが、諸先生方のご助言や信頼できる友人たちの励ましにより乗り越えることができました。このような経験のすべてが、これからの人生において、大きな糧となるに違いありません。

私は、この2年間でさまざまなことを経験しましたが、そのなかで特に貴重なものと考えているのは、問題を解決するためのポイントを学べたということです。そのポイントの1点目は、「何のために」という目的を明確にし、目的と手段を取り違えることで物事の本質から遠ざからないようにすること。2点目は、どの視点から物事を捉えているかを明確にし、別の視点からの捉え方と混

同してはならないということ。3点目は、物事に対して、ひとつの視点からではなく、複数の視点から見なければならぬということ。4点目は、言葉を用いるとき、どのような定義に基づいてその言葉を用いているのかを常に意識しておかなければならない、つまり、意識せずに同じ言葉を異なる意味で用いると、相手を混乱させるだけでなく、自分自身の思考を整理することもできなくなるということです。

今日、私たちは本学大学院を修了し、進学する者、就職する者、職場に復帰する者等その進路はさまざまですが、これからも本学大学院の修了生であることを自覚し、いかなる分野に進んでも、常に自分の目指す道を探求していくことを忘れず、本学大学院で培った専門知識と経験を生かし、人生の新しく、力強い第一歩を踏み出していこうと考えています。また、本学大学院の第1期生であることに、誇りを持って生きていきたいと思えます。

最後になりましたが、本日お集まりいただいた皆様方の、今後のご健康とご活躍、並びに本学の益々のご発展をお祈りいたしまして、修了生一同の感謝の言葉に代えさせていただきます。

修了生代表 開発研究科 草刈 健司



規則に関する事項

□ 規程の改正

- 「島根県立大学大学院学則」の一部改正
第72回評議会議決／平成17年1月26日施行
「島根県立大学メディアセンター利用規程」の一部改正
第73回評議会議決／平成17年4月1日施行

会議の開催状況

□ 評議会 議決事項

- ・第70回 12月1日
 - 1 学生の退学に関する件
 - 2 学生の休学に関する件
 - 3 学長の職務代理の指名に関する件
- ・第71回 12月22日
 - 1 平成18年度入学試験選抜要項に関する件
- ・第72回 1月26日
 - 1 評議会人事委員会の構成に関する件
 - 2 異常気象等による緊急時における授業等の取扱要領に関する件
 - 3 非常勤講師の任用に関する件
 - 4 進学制度の創設等に係る大学院学則の一部改正に関する件
- ・第73回 2月23日
 - 1 評議会人事委員会の構成に関する件
 - 2 平成17年度 開発研究科長予定者の選考に関する件
 - 3 学生の退学に関する件
 - 4 島根県立大学メディアセンター利用規程の一部改正に関する件
 - 5 本学教員としての服務規律の確保に関する件

□ 教授会 議決事項

- ・第64回 11月17日
 - 1 専任教員の辞意表明に関する件
 - 2 平成17年度3年次編入学試験に関する件
 - 3 平成17年度交流県留学生の選考に関する件
 - 4 島根県立大学評議員選考実施細則に関する件
 - 5 評議員選考実施のための選挙管理委員会の構成及び選考スケジュールに関する件
 - 6 学生の退学に関する件
 - 7 学生の休学に関する件
 - 8 卒業研究提出に関する件
 - 9 TOEICの成績等に基づく単位認定に関する件

- 10 島根大学との単位互換協定に基づく単位認定(平成16年度春学期)に関する件
 - 11 平成16年度秋学期 英語科目の聴講募集に関する件
 - 12 平成17年度演習科目クラス編成に関する件
 - 13 慶北大学校との交換留学に係る留学生に関する件
 - 14 平成17年度の学年暦に関する件
- ・第65回 12月15日
 - 1 評議員予定者選挙の結果に関する件
 - 2 専任教員の辞意表明に関する件
 - 3 平成17年度自己推薦者選抜、推薦入学及び私費外国人留学生特別選抜に関する件
 - 4 学部人事委員会の構成に関する件
 - 5 平成18年度入学試験選抜要項に関する件
 - 6 授業アンケートの実施に関する件
 - 7 異文化理解科目推進委員会(仮称)の設置に関する件
 - 8 平成17年度新設科目に関する件
 - 9 外国語能力試験の成績等に基づく単位認定に関する件
 - 10 シラバスの配布方針に関する件
 - 11 平成16年度卒業証書授与式に関する件
 - ・第66回 1月19日
 - 1 専任教員の辞意表明に関する件
 - 2 情報系科目担当専任教員の人事に関する件
 - 3 学部人事委員会の構成に関する件
 - 4 異常気象時における授業の取り扱いに関する件
 - 5 非常勤講師の選考に関する件
 - 6 学則第41条留学(認定留学)の手続き及びオリエンテーションに関する件
 - 7 島根大学との単位互換協定に基づく特別聴講の申請に関する件
 - 8 3月教授会の開催日に関する件
 - 9 外国人留学生チュータの選考に関する件
 - ・第67回 2月16日
 - 1 教員の昇任人事に関する件
 - 2 優秀卒業研究発表会実施特別委員会に関する件
 - 3 学生の退学に関する件
 - 4 平成17年度時間割に関する件
 - 5 平成17年度春学期科目等履修生・聴講生の募集に関する件
 - 6 平成16年度ゼミ担当教員アンケートに関する件

7 外国人留学生チュータの選考に関する件

□ 北東アジア研究科委員会 議決事項

・第23回 12月18日

- 1 大学院将来構想の検討を開始する件
- 2 修士課程、博士前期課程から博士後期課程への進学の見取りに関する件
- 3 学位論文の製本方法等に関する件
- 4 大学院サーバーの利用に関する件

・第24回 1月12日

- 1 博士後期課程への進学に関する諸規程の整備に関する件
- 2 入学試験（B日程）実施に関する件
- 3 修士論文の審査に関する件
- 4 修士論文審査委員会に関する件

・第25回 2月9日

- 1 一般選抜（B日程）及び第2回国外特別選抜試験に関する件
- 2 博士後期課程等の試験実施に関する件
- 3 大学院授業科目早期履修制度の創設に関する件

・第26回 2月23日

- 1 博士後期課程への進学試験に関する件
- 2 修士論文審査結果に関する件

□ 開発研究科委員会 議決事項

・第23回 12月8日

- 1 大学院将来構想の検討を開始する件
- 2 修士課程、博士前期課程から博士後期課程への進学の見取りに関する件
- 3 学位論文の提出方法等に関する件
- 4 修士論文審査委員会の構成に関する件
- 5 修士論文審査委員会の審査基準及び口頭試問に関する件

・第24回 1月12日

- 1 入学試験（B日程）実施に関する件
- 2 大学院学則の一部改正に関する件
- 3 修士論文審査に関する件

・第25回 2月9日

- 1 入学試験（B日程）に関する件
- 2 博士後期課程の試験実施に関する件
- 3 大学院授業科目早期履修制度の創設に関する件

・第26回 2月23日

- 1 博士後期課程への進学試験に関する件
- 2 修士論文審査に関する件

・第27回 3月2日

- 1 平成16年度学位授与決定に関する件

□ 運営委員会（E会議）審議項目

・第207回 12月14日

- 1 FDアンケートの実施について
- 2 平成17年度自己推薦者選抜、推薦入学及び私費外国人留学生特別選抜について
- 3 平成18年度入学試験選抜要項について
- 4 平成16年度卒業証書授与式について
- 5 平成17年度版「学生便覧」の作成について
- 6 「MOT」セミナー開催への共催について

・第208回 12月21日

- 1 評議会の議題について

・第209回 1月11日

- 1 異常気象等による緊急時における授業等の取扱要領について

・第210回 1月18日

- 1 第2回地域振興に関する提言を含む卒業研究・論文の発表会の開催について
- 2 非常勤講師の任用について

・第211回 1月25日

- 1 評議会の議題について

・第212回 2月1日

- 1 平成17年度入学学生に斡旋するパソコンの選定について

・第213回 2月8日 ※協議事項なし

・第214回 2月15日

- 1 優秀卒業研究発表会実施特別委員会について
- 2 学生の退学について
- 3 平成17年度一般選抜（前期日程、後期日程）に係るスケジュールについて
- 4 大学将来構想検討懇談会報告書（素案）について

・第215回 2月22日

- 1 評議会の議題について

・第216回 3月1日

- 1 平成17年度入学式について
- 2 学生の退学について

・第217回 3月3日

- 1 平成17年度一般選抜（前期日程）について
- 2 平成16年度卒業予定者について
- 3 学生の退学について

・第218回 3月8日 ※審事項なし

・第219回 3月15日

- 1 「現代しまね学・特論」講義の開講に伴う学

則の改正について

- 2 平成17年度における教育研究研修費と共通経費の取り扱いについて

- 3 学生の退学について

- 4 学生の休学について

- 5 学生の復学について

・第220回 3月16日

- 1 一般選抜（後期日程）について

- 2 卒業予定者の卒業判定について

- 3 学生の休学について

・第221回 3月22日

- 1 評議会の議題について

□ 研究科連絡調整会議（G会議） 審議項目

・第23回 12月2日

- 1 大学院の将来構想の検討について

- 2 学部教員の大学院教員への選考基準について

- 3 修士課程から博士課程への進学の実施について

- 4 平成17年度のシラバスについて

- 5 学位授与式及び入学式の日程について

- 6 各研究科委員会の議事要旨の確認について

・第24回 1月11日

- 1 博士後期課程への進学に関する諸規程の整備等について

- 2 大学院将来構想検討委員会（仮称）の設置について

- 3 入学試験（B日程等）の実施について

- 4 秋学期の成績処理について

- 5 平成17年度入学オリエンテーションについて

- 6 各研究科委員会の議事要旨の確認について

・第25回 2月8日

- 1 修士論文の審査方法について

- 2 一般選抜（B日程）及び第2回国外特別選抜試験について

- 3 博士後期課程等の試験の実施について

・第26回 2月23日

- 1 博士後期課程への進学試験について

- 2 大学院科目早期履修制度について

- 3 平成17年度大学院入学試験結果と今後の対応について

・第27回 3月8日

- 1 平成17年度の時間割について

- 2 大学院講義科目早期履修制度の試行について

- 3 院生の復学及び退学について

- 4 各研究科委員会の議事要旨の確認について

□ 学内諸会議

- G Pプログラム対策委員会

・3月9日

- メディアセンター委員会

・1月26日・3月16日

- P R・情報発信委員会

・12月15日・1月19日・2月16日

- 留学生委員会

・1月31日

- 教務委員会

・12月2日・1月13日・2月10日・3月2日

・3月15日

- 入試委員会

・12月7日・1月20日・2月10日・3月2日

・3月16日

- 教職課程委員会

・1月19日・3月3日

- 学生生活委員会

・12月9日・1月17日・1月20日・2月9日

・3月16日

- 就職委員会

・12月22日・1月26日・3月3日

- 研究活動・総合政策学会委員会

・12月1日・1月12日・2月2日・3月9日

- 公開講座委員会

・12月15日・1月11日・1月19日・2月16日

・3月16日

- ファカルティ・デベロップメント検討委員会

・12月2日

- 地域連携推進委員会

・12月2日・1月20日

人事に関する事項

□ 臨時職員

採用（平成17年2月1日付け）

瀧 暁子（教務学生事務室 3月31日まで）

松岡裕子（共同研究室 3月31日まで）

更新（平成17年3月1日付け）

河野雅子（企画総務事務室）

主な学内行事

12月1日 キャリア形成講座

公開講座（渡辺教授）

12月3日	推薦、自己推薦等入試事務局説明会 問題演習講座（経済学、行政法）		
12月4日	推薦入学、特別選抜		
12月5日	自己推薦者選抜 教養講座		
12月7日	北東アジア前期課程院生報告会		
12月8日	公開講座（鹿教授） キャリア形成講座 問題演習講座（経済学）		
12月9日	総合政策学会第8回特別講演会		
12月10日	北東アジア学研究懇談会シンポジウム 問題演習講座（行政法）		
12月11日	第5回国際文化交流の夕べ 法律基礎講座（憲法）、S P I 短期集中講座		
12月12日	教養講座		
12月13日	参与会（松江市） 学生寮居室点検		
12月14日	北東アジア前期課程院生報告会		
12月15日	公開講座（スカリー助教授） キャリア形成講座 大学入試センター試験監督者説明会（第1回）		
12月16日	国際交流会館居室点検		
12月17日	問題演習講座（経済学、行政法）		
12月18日	S P I 短期集中講座		
12月19日	教養講座		
12月21日	石嘴山市訪問団表敬訪問 浜田高等学校との高大連携推進会議 北東アジア後期課程院生報告会 基礎演習オリエンテーション		
12月22日	公開講座（村井助教授） F・D研修会 総合化演習オリエンテーション キャリア形成講座		
12月23日	S P I 模擬試験		
12月27日	学生寮・国際交流会館閉寮点検		
12月28日	仕事納め式		
1月4日	事務局仕事始め式		
1月7日	問題演習講座（経済学、行政法）		
1月8日	法律基礎講座（商法）		
1月9日	教養講座		
1月10日	教養講座		
1月11日	教職員新年互礼会		
1月12日	大学入試センター試験事務局説明会 大学入試センター試験監督者説明会		
			（第2回） キャリア形成講座
		1月13日	情報システム実務者会議
		1月14日	問題演習講座（経済学）
		1月15日	大学入試センター試験
		1月16日	大学入試センター試験
		1月18日	第36回北東アジア研究会 異文化理解推進委員会 院生研究発表会（北東アジア研究科） 基礎演習クラス編成会議（第1回）
		1月19日	総合化演習クラス編成会議（第1回） キャリア形成講座 学内企業説明会（3年生対象）
		1月21日	第6回大学将来構想検討懇談会 問題演習講座（経済学）
		1月22日	法律基礎講座（商法） 嘱託職員公募試験
		1月23日	嘱託職員公募試験 公務員模擬試験（地方上級）
		1月24日	韓国・交流協定締結大学訪問（～26日）
		1月25日	大学院将来構想検討委員会 基礎演習クラス編成会議（第2回）
		1月26日	TOEIC学内試験 総合化演習クラス編成会議（第2回） 卒業予定者向け説明会（1回目） アカデミック・サロン
		1月28日	問題演習講座（経済学）
		1月29日	法律基礎講座（商法）
		2月2日	第18回北東アジア学研究懇談会 卒業予定者向け説明会（2回目） キャリア形成講座
		2月3日	模擬面接（就職支援）
		2月4日	模擬面接（就職支援）
		2月5日	大学院入試（北東アジア前期B日程・開発）
		2月7日	島根県立大学後援会 理事会
		2月9日	就職相談会（3年生）
		2月10日	就職相談会（3年生）
		2月15日	模擬面接（就職支援）
		2月16日	第7回大学将来構想検討懇談会 シンポジウム「社会システムの変化と現代中国の課題」(鹿教授プロジェクト) 交流県留学生日本語研修2005開講式 一般選抜（前期日程）の監督者説明会 3年生企業訪問（石見地域）
		2月17日	一般選抜（前期日程）の事務局説明会

- 2月20日 大学院入学・進学試験(北東アジア後期)
 2月21日 大学院将来構想検討委員会
 2月24日 3年生企業訪問(出雲地域)
 2月25日 一般選抜(前期日程)の実施

主な来学者(敬称略)

- 12月1日 井原紀雄(社)島根県情報産業会会長
 12月3日 宮下義重(浜田港運社長)、鈴木琢也(石見ケーブルビジョン社員)
 12月8日 三浦正樹(県立浜田高校校長)、宇田津一郎(元宮崎県立宮崎西高校校長)
 12月9日 杉崎重光(損保ジャパン総合研究所理事長(前IMF副専務理事))
 12月10日 西原春夫(国士舘大学理事長/日本日中関係学会顧問)、川西重忠(桜美林大学大学院客員教授/日本日中関係学会理事)、大西義久((財)金融情報システムセンター理事/日本日中関係学会評議員)
 12月11日 白岩貢(青森短期大学講師)、秦江里奈(洗足学園音楽大学)
 12月21日 馬金虎(石嘴山市人民政府市長)ほか
 12月22日 有本章(広島大学高等教育研究開発センター長・教授)
 1月7日 川口 清史(立命館大学 政策科学部長)ほか
 1月18日 吉田豊明(敬愛大学講師)
 1月21日 高木誠一郎(青山学院大学国際政治経済学部教授)
 1月24日 溝口雄三(東京大学名誉教授)、原正一郎(国文学研究資料館助教授)
 1月26日 吉本礼二(はまだ漁業協同組合参事)
 1月31日 朴憲大(蔚山大学校国際交流センター部長)
 2月7日 山崎俊行(後援会会長)、三浦浩二(同副会長)、西川友史(同理事)
 川本謙一(島根大学法文学部教授)
 2月16日 陳文源(江南大学教授)、莊若江(江南大学助教授)
 松原孝俊(九州大学教授)
 2月23日 有馬毅一郎(放送大学島根学習センター所長)、前川啓治(筑波大学教授)
 2月24日 津田倫男(㈱フレイムワーク・マネジメント代表取締役)

お知らせ

□ 今後の主な行事

- 4月2日(土)～4日(月) 新入生入寮期間
 4日(月) 北東アジア研究会
 5日(火) 入学予定者事前説明会
 入寮説明会
 6日(水) 学部入学式
 大学院入学式
 学生健康診断(8日まで)
 島根県立大学後援会理事会・総会
 8日(金) 1年生オリエンテーション
 新入生歓迎会(学部・大学院)
 11日(月) 博士後期課程ガイダンス
 15日(金) 公立大学協会戦略会議
 16日(土) 公開講座(堀内教授・浜田高校)
 22日(金) 公立大学協会第1回理事会
 23日(土) 公開講座(田嶋教授・浜田高校)
 27日(水) 第34回アカデミック・サロン
 5月9日(月)～6月6日(月) 韓国・蔚山大学校語学
 研修受け入れ
 10日(火) 蔚山大学校語学研修開講式・歓迎式典
 11日(水) 北東アジア学研究懇談会
 13日(金) 公立大学協会 第64回総会
 14日(土) 公開講座(高橋教授)
 21日(土) 公開講座(堀内教授・浜田高校)
 28日(土)～29日(日) マスコミ学会
 28日(土) 公開講座(井上定彦教授)

学報 第24号

2005年3月31日発行

【編集発行】

島根県立大学PR・情報発信委員会
 島根県浜田市野原町2433-2

Tel0855-24-2204 Fax0855-24-2210

E-mail:prjoho@admin.u-shimane.ac.jp

ホームページ:http://www.u-shimane.ac.jp/